

ロール概念を利用したスペイン語の数形式に関する考察

栗林ゆき絵

東京大学教養学部非常勤講師

## 1. 導入

### 1.1. 問題の背景

スペイン語の名詞には単数形(語尾ゼロ)と複数形(語尾-(e)s)の2つの数(すう)形式が存在する(*casa/casas*)。動詞の項には、可算性を認められた名詞(いわゆる可算名詞)<sup>1</sup>は原則無冠詞単数形では現れない(Bosque(1996:35))。

*leer libros, escribir cartas, hacer tartas, hacer preguntas, dar paseos*

(本を読む、手紙を書く、ケーキを作る、質問する、散歩する)

しかし、例外的に可算名詞が無冠詞単数形で用いられる場合がある。

*ponerse jersey, llevar sombrero, tener novio, tener coche, buscar casa*

(セーターを着る、帽子をかぶっている、恋人がいる、車を持っている、家を探す)

この場合の無冠詞単数形は何を表しているのか。いわゆる不可算名詞の場合も含め、一般にスペイン語の無冠詞単数形が表すものは何なのか。また、当該の文脈で何故無冠詞単数形が出現するのか、ということが問題となる。

### 1.2. 本研究の目的

単数形・複数形の数形式の対立が、指示対象の数(かず)を表すとするならば、単数形は「数が1であることを表す」と考えるのが自然である。しかし

(1) *Tomamos vino.*(飲む 1pl 現, ワイン) 私たちはワインを飲む。

(2) *No tengo ordenador.*(NEG, 持つ 1sg 現, コンピュータ)私はパソコンを持っていない。

などのように、いわゆる不可算名詞や否定文の項となる名詞については、単数形であっても「指示対象の数が1である」ことを表しているとするのは疑問である。単数形という形式に多義を認め、「数が1である」機能と「数を導入しない(数に言及しない)」機能の2つを認めるという案も考えられるが、1つの形式に複数の機能(意味)を認めることは、出来る限り避ける立場をとりたい。

今回は「ロール/ロールホルダー」の考え方を利用することで、まず第一に、スペイン語における名詞の無冠詞単数形という形式、およびその相補的な形式である無冠詞複数形という形式の持つプライマリーな機能を記述することを試みる。第二に、「ロール/ロールホルダー」の考え方を限定詞つきの名詞句にも適用し、その有効性を示す。さらに、単数形/複数形の出現条件まで考察を進めたい。

### 1.3. 本研究の対象

主語もしくは直接目的語位置に現れる無冠詞単数形名詞句(後置形容詞や前置詞句を伴うものも含む)を中心に扱う。具体的には Bosque(1996)で可算名詞の無冠詞単数形を項に取る例として挙げられている動詞のうち<sup>2</sup>、1)内包動詞(*verbos intensionales*)、2)ステレオタイプ述語(*estereotipos*)<sup>3</sup>、支持動詞(*verbos soportes*, "light verb")、4)存在動詞(存在の述語 *predicados existenciales*)、を対象とし必要に応じて対立する例も検討する。

<sup>1</sup> 可算性は名詞によって傾向(好み)はあるにせよ、本質的属性(辞書情報)ではなく、文脈ごとに決まる値と考える。

<sup>2</sup> Bosque(1996)では他に並列句、否定文、コピュラ補語を挙げているが今回は対象外とする。

<sup>3</sup> 概念上の対象を項に伴い、個物の特徴となる典型的な属性を表す述語。 *tener coche*(車所持者である)など。

## 2. ロール/ロールホルダーと無冠詞単数形/無冠詞複数形

### 2.1. ロール/ロールホルダー

分析の手がかりとして「ロール」「ロールホルダー」という概念をモデルとして導入する<sup>4</sup>。「ロール」は語の定義に相当する。たとえば *estudiante* 「学生」という語は *estudiante* 性「学生であること」という「ロール」(役割)を持つ、と考える。それに対して、その「ロール」を割り当てられた個別の要素(指示対象ではない)を「ロールホルダー」(役割を担う個物)とする<sup>5</sup>。同じ名詞は、使用される形態・統語的環境により、以下の例の通り、ロールを表すこと(a)もロールホルダーを表すこと(b)もできる。

- |  |                           |
|--|---------------------------|
| (3a) <i>Tengo novio.</i> (持つ 1sg 現, 恋人)  | 私は恋人がいる。                  |
| (3b) <i>Mi novio es español.</i> ( <i>my</i> , 恋人, <i>be3sg</i> 現, スペインの)        | 私の恋人はスペイン人だ。              |
| (4a) <i>Juan es estudiante.</i> ( <i>Juan</i> , <i>be3sg</i> 現, 学生)              | フアンは学生だ。                  |
| (4b) <i>El estudiante es mexicano.</i> ( <i>the</i> , 学生, <i>be3sg</i> 現, メキシコの) | その学生はメキシコ人だ。 <sup>6</sup> |
| (5a) <i>Vino aquí en taxi.</i> (来る 3sg 点過去, <i>here</i> , タクシー)                  | 彼はタクシーでここに来た。             |
| (5b) <i>Cogió un taxi.</i> (乗る 3sg 点過去, <i>a</i> , タクシー)                         | 彼はタクシーに乗った。 <sup>6</sup>  |

### 2.2. Bosque(1996)の例への適用

#### 1) 内包動詞の例

項の指示対象の存在を前提としない内包動詞はいわゆる可算名詞の無冠詞単数形を項に持ち得る。

- (6) *Estoy buscando piso.* (*be1sg* 現在, 探す 現在分詞, アパート) 私はアパートを探している。

この無冠詞単数形は(ロールホルダー(=個物)でなく)ロールを表していると考えられる。内包動詞でない場合は無冠詞単数形は不可能である。つまり、項にロールを取ることはできない。

(7) \**Estoy pintando  $\phi$  piso.* (*be1sg* 現在, 塗る 現在分詞, アパート) 私はアパート(の壁)を塗っている。いずれの動詞も、無冠詞複数形もしくは限定詞つき名詞句を項に取ることはできる。これらはいずれもロールホルダーを表していると考えられる。

- (8) *Estoy buscando/pintando  $\phi$  pisos / un piso.* (同上)

#### 2) ステレオタイプ述語の例

個物の特徴となる典型的な属性を表す述語においてその直接目的語は無冠詞単数形を取る。これは現実の個物(*objeto real*)ではなく概念上の対象(*objeto mental*)に言及しており、ロールであると言える。

- (9) *Llevaba sombrero.* (身につけている 3sg 線過去, 帽子) 彼は帽子をかぶっていた。

クラス<sup>7</sup>を限定する(サブクラスを表す)形容詞が後置されても名詞は無冠詞単数形でよいが、個物を限定する形容詞を伴うときは限定詞が必要となる。名詞+形容詞からなる名詞句でも、前者はロールを、後者はロールホルダーを表していると考えられる。

- (10) *Llevaba sombrero cordobés. / \*(un) sombrero horrible.* コルドバ帽 ひどい帽子をかぶっていた。

#### 3) 支持動詞の例

<sup>4</sup> ロール/ロールホルダーという用語については溝口(2005)から引用。ただし、その概念については発表者独自のものを引用している。ロールに関してはフォコニエ(坂原他訳 1987)の「役割」「役割関数」の考え方も参照した。

<sup>5</sup> ロールは数えられないが、ロールホルダーは数えることができ、また指示的にもなりうる。

<sup>6</sup> *un(una, unos, unas)*は不定冠詞、*el(la, los, las)*は定冠詞

<sup>7</sup> 本稿ではロール以外のクラスを認めていないので事実上ロール⇐クラスである。

"light verb"(verbo liviano)とも呼ばれるそれ自身の語彙的意味が希薄な支持動詞は無冠詞の単数形・複数形いずれも項に取ることができる。前者は非個別的(inespecífico)で比喩の意味になることも多いのに対し、後者は個別性(especificidad)が認められる。前者はロール、後者はロールホルダーと考えられる。

- (11)tener miedo / dudas (tener 持つ) 怖い(恐怖を持つ)/疑問点がある  
 (12)hacer efecto / progresos (hacer する) 影響する/進歩する  
 (13)dar pie / alientos (dar 与える) 口実(足)を与える/気力を与える

#### 4)存在動詞の例

稀ではあるが存在動詞が無冠詞単数形名詞を伴うことがある。この場合、存在動詞+無冠詞単数形名詞で予期される(典型的な)事象を表す。この無冠詞単数形もロールの表現であると考えられる。個物や個別の事象に言及する場合は、ロールホルダーを表す無冠詞複数形となる<sup>8</sup>。

- (14)Mañana hay examen./ exámenes. (明日,ある,試験) 明日は試験日である/試験がある  
 (15)Hay pianista / pianistas. (ある,ピアニスト) ピアノ演奏がある/ピアニストがいる

### 3.数形式の表すもの

#### 3.1.無冠詞単数形と無冠詞複数形

1)無標の形態である無冠詞の単数形は(名詞の可算性(の傾向)によらず)第一義的に「ロール」を表す。

- (16)Llevan sombrero. (身につけている 3pl 現, 帽子) 彼らは帽子をかぶっている。  
 (17)Voy a comprar vino. (行く 1s 現, to, 買う, ワイン) 私はワインを買おう。  
 (18)Tengo coche. (持つ 1sg 現, 車) 私は車を持っている。

2)有標の数形式である複数形にすると、ロールを割り当てられた個別の要素(指示対象ではない)、すなわち「ロールホルダー」を表すようになる。「ロールホルダー」を表す最も無標の形態が無冠詞複数形である。

- (19)Venden sombreros. (売る 3pl 現, 帽子) 彼らは帽子を売っている。  
 (20)Tengo dudas. (持つ 1sg 現, 疑い) 私は疑問点がある。

#### 3.2.限定詞つき名詞句

冠詞などの限定詞は話し手が聞き手に対して要素を「取り出し」て提示することを表す(栗林(2004))<sup>9</sup>。

1)複数形は、限定詞を伴っても「ロールホルダー」を表すことに変わりはない。(ここでは当該名詞句が現実の実体を指示するのか(referential か)どうかは問題にしない。)

- (21)La Mafia soborna a los políticos. (Laca(1996:248)) マフィアは政治家らに賄賂を贈る。

2)限定詞つき単数形は、無冠詞複数形によって表される「ロールホルダー」の集合の中から取り出された1つのロールホルダーを表すこともあれば、一方、無冠詞単数形によって表される「ロール」自体が取り出される場合もありうる。(後者にはいわゆる総称(個別のクラスを表す)表現も含まれる<sup>10</sup>。)

- (22)Compré un vino. El vino está rico./ El vino es una bebida típica de España.  
 私はワインを買った。そのワインはおいしい。[ホルダー]/ワインはスペインの代表的な飲み物だ。[ロール]

<sup>8</sup> ロールホルダーは不定の限定詞で表してもよい。例: Hay un examen. Hay un pianista.

<sup>9</sup> 栗林(2004)では「取り出し」という用語を用いる。取り出し方は限定詞によって異なるが、ここでは詳述しない。

<sup>10</sup> 総称とロールの区別については本稿では扱わず、今後の課題とする。

(23) *La línea aérea cobra demasiado por el trayecto.* (Garrido(1996:288))

空路(航空会社)はその経路では高くつきすぎる。... [曖昧な例]

#### 4. 数形式の出現条件

「ロール」を表す⇒単数形

「取り出し」なし⇒(無冠詞の)単数形

「取り出し」あり⇒(限定詞つき)単数形

「ロールホルダー」を表す

数に言及せず⇒(無冠詞の)複数形

数に言及する

数が(0 か<sup>11</sup>) 1 ⇒(限定詞つき)単数形

数が 2 以上⇒(限定詞つき)複数形

無冠詞の環境に限ると、「ロール」か「ロールホルダー」かが、単数形か複数形かを定める条件になる。この場合複数形が有標なので、「ロールホルダー」が選択される条件を考えると以下のようなケースが挙げられる。いずれにも当てはまらなければ無冠詞単数形でよい。

##### 1) 反復

(24) *No leo libros.* 私は本を読まない(読書をしない)。

(25) *En su juventud todavía se escribían cartas de amor.* (NV260)

彼らの若い頃はまだ恋の手紙(恋文)が書かれていた。

##### 2) 種類

(26) *Venden sombreros.* (既出)      (27) *Tengo dudas.* (既出)

(28) *Amelia empezaba a escaparse de la niñez y a tener secretos para mí.* (NV155)

アメリアは幼少期を抜け出し、私に対して秘密を持ち始めていた。

#### 5. まとめ

φ sg    ロール	φ pl    ロールホルダー
det+sg    ロールまたは 0 か 1 個のロールホルダー	det+pl    2 個以上のロールホルダー

(det = 限定詞)

#### 参考文献

Bosque, Ignacio. (ed.). 1996. *El sustantivo sin determinación*. Visor Libros. Madrid

フォコニエ, ジル/坂原茂ほか訳. 1987. 「メンタル・スペース」. 白水社

Garrido, Joaquín. 1996. *Sintagmas nominales escuetos*. in Bosque(1996). 269-338.

栗林ゆき絵. 2004. 「限定詞と数形式の出現条件」. 『寺崎英樹教授退官記念論文集』. 45-53 くらしお出版

Laca, Brenda. 1996. *Acerca de la semántica de los «plurales escuetos» del español*. in Bosque(1996). 241-268.

溝口理一郎. 2005. 「知の科学 オントロジー工学」. オーム社

#### 資料体

Martín Gaité, Carmen, 1992. *Nubosidad Variable*. Editorial Anagrama. Barcelona [本文中 NV で示す]

<sup>11</sup> 0 の例... *No tengo ningún ordenador.* (NEG, 持つ 1s 現, ひとつも, コンピュータ) 私は PC を 1 台も持っていない。